和風会便り

Ｖｏｌ．９４
発行日．２０２２．１０．３
発　行．和風会中島病院　広報担当

城西浪漫館（中島病院　旧本館）のご紹介

当院の現在の建物のすぐ隣にある、大正ロマン溢れる建物は、現在“城西浪漫館”として地域の皆様はもちろんのこと、津山に観光等で来られた数多くの方々も訪問してくださる建物です。

そんな城西浪漫館が当院の旧本館であったことはご存じの方も多いと思われますが、実際の歴史についてご存じの方はあまりいらっしゃらないかもしれません。

そこで今回は、改めてその歴史をご紹介したいと思います。

現在の城西浪漫館は、当院の当時の本館として、１９１７年（大正６年）完成しました。木造モルタル塗り２階建て、延べ２５０平方メートルとなっており、完成時は屋根全面が天然ストレート葺（ぶ）きだったそうです。大正から昭和にかけ多くの名建築を手がけた、津山の名棟梁　池田豊太郎氏が中心となり建築されました。

１階には、診察室・待合室・処置室・検査室など、２階には、応接室と病室がありました。当時は別棟にレントゲン室も置かれていました。

そもそもこのような立派な建物が建てられるきっかけとなったのが、現在当院の玄関横に銅像もある、中島病院創始者の中島琢之の存在でした。

当院は 1878 年（明治 11 年）、中島琢之の父である、医師　中島大次郎が津山市高野本郷に内外医術院を開院したのが始まりです。

琢之は大次郎の長男として生まれ、東京帝国大学医科大学医学科（現：東京大学医学部）を卒業後、日本医学専門学校（現：日本医科大学）内科部長として活躍していましたが、地元に熱望されて職を辞し、看護師２名を伴って、大次郎の後継者として帰津し、1914 年（大正３年）津山市元魚町に私立中島病院を開業しました。病院には人力車が列をなして患者さんが詰めかけるほどでしたが、琢之は研究などで再度上京を希望しており、その意思を知人に漏らしました。

それを聞いて、「せっかくの名医を失っては大変」と、妹尾銀行頭取の妹尾順平氏を中心とした津山の名士達が協力して 1917 年（大正６年）、現在の場所に旧本館を建築しました。琢之はその後１０年かけ、建築費を返済しましたが、その際に『これで東京にでるチャンスを失った』と冗談交じりに話したそうです。

旧本館は昭和５０年頃まで実際に診察に使われていました。現在当院に通院してくださっている方の中にも、「（旧本館で）診察を受けとったで」「入院しとったんよ」と教えてくださる方がいらっしゃいます。

建築物としても非常に価値のある旧本館は、2008 年（平成 20 年）11 月に、大正時代の建造物として津山市に寄贈され、当時の面影を残したまま、現在の城西浪漫館として生まれ変わりました。

その後、2010 年（平成 22 年）に国の登録有形文化財に登録されました。

現在はカフェ・ギャラリーとして、日々沢山の方が来てくださる観光スポットにもなっています。また地元で作られた手作りのお弁当・パン・お菓子・城西オリジナルグッズ等、様々なものを購入できます。カフェでは、珈琲の当て字を考案した、津山藩医・宇田川榕菴にちなんだ榕菴コーヒー（江戸時代のコーヒーのブレンドを再現）を飲むことができます。

まだ城西浪漫館に行かれたことのない方は、ぜひ一度榕菴コーヒーを飲みに、そして素敵な建物を見学しにお越しください。

【現在】

【創立当時】

【病院の基本理念】

私達は地域に信頼される内科専門病院として良質な全人的医療を提供いたします。

【病院の方針】

病院の理念を達成するために、次の方針を実行します。

1．安全・安心な医療を行います.
2．いかなる人の人権も尊重します。
3．親切丁寧な対応に努めます。
4．個人情報は保護します。
5．必要な知識・技術の習得に努めます。
6．快適で清潔な病院環境を整えます。
7．医療・介護・福祉機関と連携し、
　地域の人々の疾病予防・健康増進に努めます。